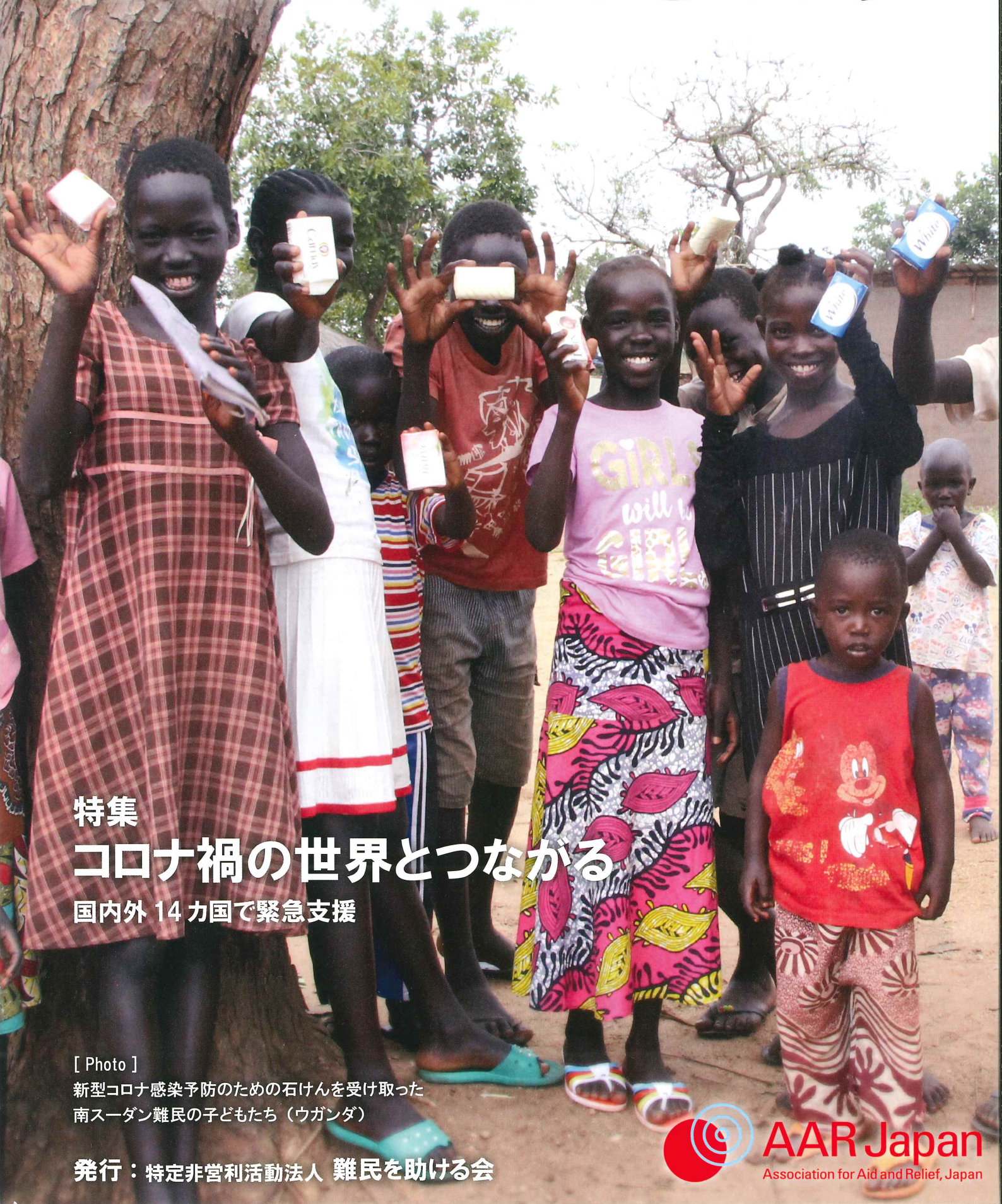


2021 Spring

NO.474

AAR News



特集

コロナ禍の世界とつながる

国内外 14 カ国で緊急支援

[Photo]

新型コロナウイルス感染予防のための石けんを受け取った
南スーダン難民の子どもたち（ウガンダ）

発行：特定非営利活動法人 難民を助ける会



AAR Japan

Association for Aid and Relief, Japan

トルコ

感染拡大によって経済的な影響を受けたシリア難民 3,000 世帯を対象に、スーパーマーケットで食料や生活用品の購入に使える電子マネーを緊急配付。外出制限や休校が長期的に続いていることで、難民の家族の精神的負担も増しているため、親子向けの心理カウンセリングを実施したほか、子どもたちに家で遊べるおもちゃセットを届けました。



日本

全国各地の障がい福祉施設・障がい関連団体、患者会約 2,800 カ所、約 14 万人に対し、マスクや消毒液などの衛生用品を届けるとともに、テレワークやオンライン会議の導入に必要な通信環境の整備を支援しました。また、コロナ禍で受託業務が減った福祉作業所の仕事の機会を創出するため、全国の福祉施設に配付する衛生用品の梱包・発送作業を委託しました。



現地協力団体のボランティアに石けんを手渡す駐在員の町村美紗(バングラデシュ)

パキスタン

コロナ禍で現金収入が断たれたり減ったりした障がい児家庭約 170 世帯に、食料と衛生用品、それぞれの家庭のニーズに応じた支援物資を配付しました。各家庭に配るマスク作りと物資の配達を一部の障がい児の保護者に依頼し、その謝礼を支払うことで、経済的に困窮した障がい児家庭の生活が少しでも楽になるようにサポートしています。



ウガンダ

南スーダン難民居住地でマスクの手作り講座を実施し、難民たちは身近に手に入る布やひもなどの材料を使ったマスクの作り方を学びました。ウガンダではマスクの需要が高く、値段も高騰しているため、買うのは容易ではありません。この取り組みで感染予防の大切さが改めて認識されたほか、手作りしたマスクを販売することで難民の生計の足しにもなっています。



ミャンマー

昨年5月以降、コロナの影響で収入が減少した障がい児家庭30世帯に米や豆類、缶詰などの食料のほか、マスクや消毒液を毎月届けています。さらに、自宅にこもりがちな障がい児のためにビデオ電話によるリハビリ指導を行うとともに、家族が専門家に代わって歩行訓練などのリハビリを施せるように、その方法を説明した冊子を作って配付しました。



バングラデシュ

ロヒンギャ難民が暮らすキャンプで、手洗いの励行などコロナ感染予防を呼び掛けるとともに、家庭内暴力や児童婚、月経衛生、子育てなどの悩みやリスクに関する講習会・座談会を行っています。また、ケースワーカーや心理カウンセラーによる個別支援を通じて、より弱い立場にある女性や子どもたちが抱えるさまざまな問題に対応し、ストレスの緩和を図っています。



特集

コロナ禍の世界とつながる 国内外14カ国で緊急支援

2020年初頭から世界中に感染拡大した新型コロナウイルスは、私たちの社会や暮らし、政治・経済に多大な影響をもたらし、1年余りを経た今も収束の見通しは立っていません。誰もが等しくコロナの脅威にさらされる中、AAR Japan [難民を助ける会] は昨年来、国内外14カ国で難民や障がい者、貧困家庭など特に弱い立場にある人々を支援してきました。そうした取り組みは今、共感と支援の輪を広げ、この危機を共に乗り越える力になっています。

支援を実施したそのほかの国

- ラオス
- シリア
- カンボジア
- ケニア
- アフガニスタン
- ザンビア
- タジキスタン
- イタリア



イタリア

コロナ乗り越え支援を継続

2020年初頭から猛威を振るう新型コロナウイルスは、今年に入っても感染拡大が続き、世界の死者は約260万人、感染者1億2000万人に上ります(3月15日現在)。世界各地の難民や障がい者に対する人道支援も多大な影響を受ける中、AARは弱い立場にある人々がコロナ禍でさらに取り残されることがないように、それぞれの事業地の状況を踏まえた支援活動を続けています。

貧困層により深刻な影響

隣国ミャンマーから逃れた累計100万人のロヒンギャの人々が暮らすバングラデシュの難民キャンプでは、コロナ感染拡大を防ぐために援助関係者の出入りが制限され、AARが運営する子どもの活動施設チャイルド・フレンドリー・スペース(CFS)も電話でのカウンセリングなどを除いて休業を余儀なくされています。子どもたちは1年以上、友達と集まって勉強したり遊んだりする機会を奪われ、「早くCFSに通いたい」「いつになったら行けるの?」という声が寄せられています。キャンプ内の有給ボランティアの仕事が減って大人もストレスを溜め込み、家庭内暴力が増えていくことから、AARは女性や子どもの心理サポートを実施しています。

コロナ禍は開発途上国の貧困層により深刻な影響を及ぼしています。度重なる戦乱で荒廃したアフガニスタンは、もともと貧困層が多いうえに、コロナ禍で失業率が30%に上昇しました。AARは経



石けんなどの衛生用品を受け取った家族(アフガニスタン)

済的に困窮した家庭を中心に衛生用品を配付したほか、厳しい状況に追い打ちを掛けるように2020年8月に発生した豪雨被災地で、家を失った被災者への緊急支援を行いました。

不安を和らげるために

約360万人のシリア難民が暮らすトルコでは、同国政府やメディアが流すコロナ関連情報は当然ながらトルコ語です。そのため、アラビア語を母語とするシリア難民は、充分な情報を得られずに不安を感じていました。AARはアラビア語版ウェブサイトを開設して、トルコ政府の通達や感染防止の情報を発信するとともに、電話やオンラインによる心理カウンセリングを実施するなど、人々が孤立することがないようにサポートしています。

アフリカ東部のウガンダに流入した南スーダン難民の居住地では、コロナ禍による経済活動の停滞や感染への不安を背景に、それまで良好だった難民と地元住民の関係が悪化し、農作物や薪の分配、井戸の利用などをめぐって争いが起きました。AARは人々の不安を少しでも和らげようと、マスクの手作りワークショップ、日本の

高校生が手作りした石けんの配付を実施。また、居住地内にある学校の演劇や音楽、討論などのクラブ活動の成果を生徒たちに地元ラジオ放送で発表してもらい、明るい話題を提供しました。

感染拡大が続く中、健康面への配慮から駐在員が一時帰国を余儀なくされた事業地では、支援が途切れることがないように、現地スタッフと常に連絡を取って事業を継続しています。コロナ禍によって差別感情や対立が生まれる悲しい現実もありますが、私たちは互いの思いやりと連帯こそが、未曾有の危機を乗り越える大きな力になると考えます。日本と世界の人々が一日も早く日常生活を取り戻せるよう、引き続き支援活動に取り組んでまいります。



南スーダンやソマリア難民などの子どもたちに布マスクを配付(ケニア)

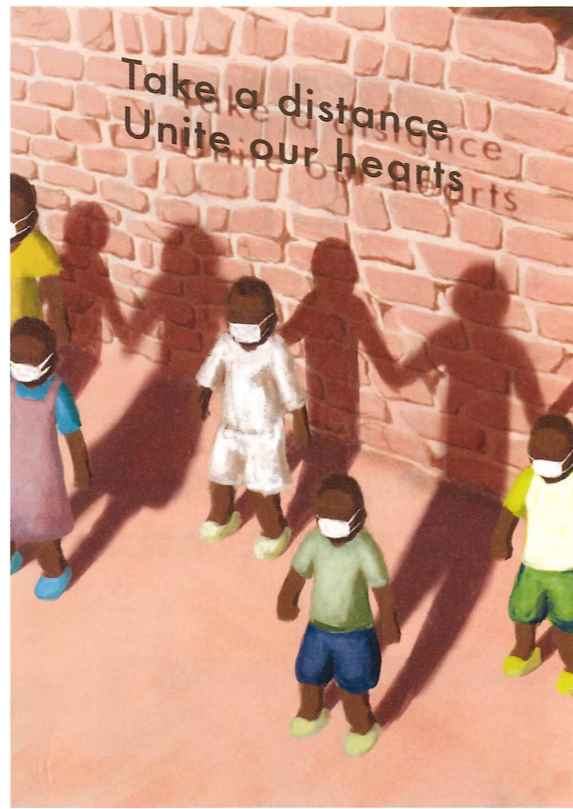
Save with Art

ポスターデザイン受賞作品

世界の難民・避難民を新型コロナウイルス感染から守ろうと、AARは「Save with Art ポスターデザイン展示会」を昨年12月に東京、今年1~2月に佐賀で開催し、多くの方々が来場しました。AAR事業地の難民・避難民にコロナの正しい情報と予防策を伝えるとともに、日本国内でも難民支援への関心を広げようと呼び掛けたデザイン公募には、国内外6カ国から156点の作品が寄せられ、最優秀賞をはじめ31点が入賞しました。入賞者の中には、ヨルダン在住のパレスチナ難民の男性もいます。

これらのデザインをもとに、手洗いやソーシャルディスタンスの大切さを視覚的に伝えるポスターを作成し、AARが活動するバングラデシュのロヒンギャ難民キャンプ、ウガンダの南スーダン難民居住地などに展示して、衛生啓発活動に役立っています。最優秀賞・優秀賞の10作品をご紹介します(敬称略)。

※東京の展示会はギャラリーてんにご協力いただきました。



最優秀賞 坂東 栄里佳

優秀賞

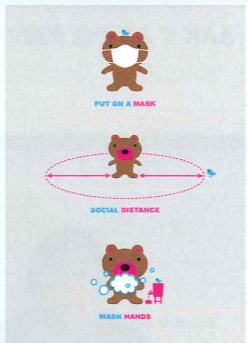
- 1 アブアルハイジャ・アラア
- 2 石川 聖佳
- 3 小川 清勇
- 4 佐々木 貴宏
- 5 澤木 拓瑠
- 6 田村 貞夫
- 7 富永 康太
- 8 中村 夏生
- 9 みやざき あけ美 (五十音順)



1



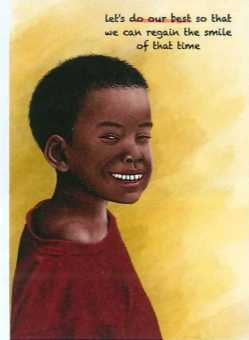
2



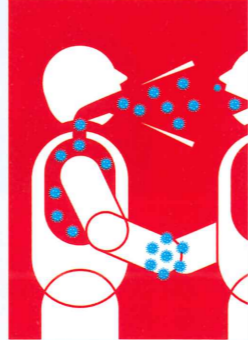
3



4



5



6



7



8



9

AARのウェブサイトでは佳作、協力賞、特別賞の作品も公開しています。ぜひご覧ください。

AAR 受賞作品



東日本大震災

あの日から 10 年
一人ひとりが願う未来の実現に向けて

東日本大震災から 10 年目の 3.11 を控えた 2 月 27 日にオンラインシンポジウムを開催。被災地の方々が望む「これから」のために私たちに何ができるのか、ご参加いただいた約 100 名の皆さんとともに考える充実した 2 時間となりました。



AAR による緊急支援の炊き出し (2011 年 3 月)

シンポジウムの冒頭で、AAR 理事長の長有紀枝が「東日本大震災と『人間の安全保障』」と題して基調講演。東日本大震災で高齢者や障がい者など社会的弱者に被害が集中した事実をデータに基づいて説明したうえで、震災から得られた教訓を未来に生かすことの重要性を「人間の安全保障」の観点から論じました。AAR 支援事業部マネージャーの野際紗綾子の 10 年間の活動報告に続いて、ゲストの小山貴氏、及川志保氏、館岡恵氏にそれぞれ、岩手、宮城、福島から震災 10 年を迎えた現地のリアルな実情をお話しいただきました。

“災害は日常の先にある。
普段のつながりで減災を”
(小山氏)



左上: 小山貴氏 (ひまわり会すてっぷ施設長)
右上: 及川志保氏 (日本産業カウンセラー協会東北支部養成講座部部长)
左下: 館岡恵氏 (西会津ワクワク子ども塾参加者)
右下: 野際紗綾子 (AAR 支援事業部マネージャー)

パネルディスカッションでは、「どのような未来を望むか」をテーマに、それぞれの地域で暮らす障がい者・地域の人々・子どもたちが抱える課題や、震災の教訓をどのように未来に生かすかなどを論議。震災からの復興に留まらず、誰もが安心して暮らせるより良い地域を創出するために「地域のつながりが重要になる」ことを改めて確認しました。

震災から 10 年、メディアではひとつの区切りとして伝えられますが、今回のシンポジウムでは、支援が必要な状況がまだまだ続いていることが浮き彫りになりました。AAR は被災地の状況の変化に応じて、必要とされる支援活動を今後も続けてまいります。



AAR 理事長の長有紀枝

福島県沖地震
被災した福祉施設を支援

「大震災を思い出した」

AAR は 2 月 13 日深夜に発生した福島県沖地震 (M7.3) で被害を受けた宮城、福島両県内の障がい福祉施設への支援活動を実施しています。発生直後から東北事務所の大原真一郎が被害状況を調査し、震度 6 強の最大震度を記録した福島県相馬市の障がい者福祉作業所「工房もくもく」、震度 6 弱だった宮城県山元町の (特活) ポラリスを 18 日に訪問して、飲料水や非常食、家電製品などの支援物資を届けました。

この地震では死者 1 人、負傷者 196 人、住宅の損壊 4600 件余りのほか、土砂崩れや断水などの被害が発生しました。知的・精神・発達障がいがある約 20 人が地域で働きながら暮らす拠点であるポラリスでは、建物に無数の亀裂が生じ、パソコンが壊れるなどの被害がありました。東日本大震災 10 年を迎える直前に起きた地震に、「10 年前を思い出しました。本格的な修繕



ポラリスの田口ひろみ代表理事 (左) から被害状況を聞く AAR の大原真一郎

には多額の費用がかかりそうです」と田口ひろみ代表理事は話します。

今回は大きな建物の倒壊など目に見える被害は少なかったものの、地域で活動する障がい福祉施設の多くが困難に直面しています。AAR は両県内の福祉施設 10 数カ所の建物修繕、備品提供に向けて資金調達を進めています。皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。

国際地雷デー

コロナも地雷も予防：アフガニスタン

4 月 4 日は国連の「地雷に関する啓発および地雷除去支援のための国際デー」です。世界では今も地雷・不発弾による犠牲が絶えず、危険から身を守る回避教育は重要な意味を持っています。

AAR が参加する「地雷禁止国際キャンペーン」(ICBL) の最新報告によると、2019 年に確認された地雷・不発弾などによる死傷者は 55 カ国・地域で 5,554 人に上り、子どもを含む多くの一般市民が犠牲になっています。地雷の被害者が最も多いのはアフガニスタンの 1,538 人、次いでシリア 1,125 人、ミャンマー 358 人の順です。また、政情不安が続くアフリカの内陸国マリは 345 人と死傷者が急増しています。2019 年の死傷者の合計は 2013 年の 3,457 人と比べて 6 割増えています。

AAR はアフガニスタンで 2002 年以降、地雷・不発弾に加え、近年深刻化する手製の即席爆発装置 (IED) の被害を防ぐための回避教育を実施しています。同国でも昨年来、新型コロナウイルス感染が広がり、多くの子どもたちが集まる講習会の開催が難しくなりました。

そこで、AAR はアフガニスタン政府地雷対策局と協力し、コロナ感染予防と地雷回避の両方を呼び掛けるポスターを作成しました (写真)。コロナについては、手洗いやステイホームなどの大切さをイラストで伝えています。



ポスターは村々に配布され、安全で健康な暮らしを守る意識を高めるのに役立てられています。

「障がい者ものづくり 応援募金」からのご寄付



公益財団法人イオンワンパーセントクラブは、東日本大震災復興支援の一環として「障がい者ものづくり応援募金」を2月6日から3月7日まで実施。全国のイオングループ店舗（一部を除く）に募金箱を設置し、お寄せいただいた募金に同財団が一定額を上乗せしたうえで、AARが実施する福祉施設への支援にご寄付くださいました。

日清製粉グループより コロナ対策支援に



株式会社日清製粉グループ本社は、「日本でコロナの影響を受けている方々に役立てほしい」と、AARの新型コロナウイルス対策支援にご寄付いただきました。同社は、東日本大震災で被災した障がい福祉作業所の焼き菓子開発での協働をきっかけに、長年にわたりAARをご支援くださっています。

チャリティコンサート ベートーベンの弦楽四重奏

オランダのロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団第一ヴァイオリン奏者の岩田恵子氏率いるカルテットをお招きします。生誕250周年を迎えたベートーベンの弦楽四重奏をお楽しみください。

日時：2021年6月20日（日）14:00開演（13:30開場）

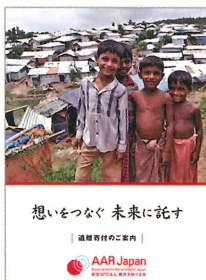
会場：銀座・王子ホール（東京都中央区銀座4-7-5）

料金：全席指定4,000円（別途、送料・手数料500円）

お申し込みはAARのホームページから、または東京事務局までお電話ください。

遺贈寄付のご相談はお気軽に

遺言によって、ご自身の財産の一部またはすべてを法定相続人以外の特定の個人・団体に譲り渡すことを「遺贈」といいます。「次の世代に想いを引き継ぎたい」と、団体への寄付をお考えになる方が増えています。遺贈先にAARをご指定いただければ、温かいお気持ちは海外・国内の難民や障がい者支援、被災者支援に活かされます。ご希望の方には、遺贈寄付の方法をまとめたパンフレットをお送りします。どんなことでもお気軽にご相談ください。



国際理解オンライン授業・講演を ご利用ください

AARは国際理解教育・啓発活動の一環として、学校での出前授業、大学生・社会人向けの講演を実施しています。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、オンライン方式の授業・講義を積極的に開催し、全国各地からもアクセスしやすく、利用しやすいとご好評をいただいています。

紛争・難民問題、地雷対策などさまざまな分野の活動経験と知見を持つ職員がいます。ご関心のあるテーマに関して、専門性を有する職員が分かりやすく解説いたします。テーマや時間など、ご希望に合わせて対応可能です。学校の国際理解教育に限らず、企業・団体や社会人グループの学習会などでもご活用いただけます。お気軽にお問い合わせください。



東京都内の高校でのオンライン授業の様子

各種お問い合わせ・お申し込み先
■ AAR 東京事務局（平日 10時～18時）

☎ 03-5423-4511

✉ info@aarjapan.gr.jp

編集担当より

リニューアルしたAAR Newsの「春」号をお届けします。イベントのご案内、ご寄付の紹介などの情報はホームページでもご覧いただけます。今後は季刊として年4回の発行になります。

AAR News

2021 Spring No.474

次号は2021年7月上旬にお届け予定です。

特定非営利活動法人 **難民を助ける会**
〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2 ミズビル7F
Tel.03-5423-4511 Fax.03-5423-4450
www.aarjapan.gr.jp



AAR Japan
Association for Aid and Relief, Japan